

令和7年度 全国学力学習状況調査の結果について

令和7年9月5日
京都市立京極小学校
校長 足立 素子

今年度、4月17日に本校6年生を対象に実施された「全国学力学習状況調査」について、結果をお知らせします。本調査は、国語と算数と理科の3教科のテストと同時に、家庭での過ごし方や学習時間を問う調査も実施されており、生活習慣と学力との関係など、本校の子どもたちの状況をお伝えします。

【国語】

全国ならびに京都府、全国平均正答率とほぼ同じ結果でした。特に「時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気づいて選択する」問題で、かなり全国平均を上回っていました。

一方で、「自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉える」問題や「書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考える」問題や、漢字の書き問題で全国平均を下回っていました。これらのことから、長文の内容を理解することが難しかったり、文章の意味に合った漢字を書いたりするのが難しかったと考えられます。

【算数】

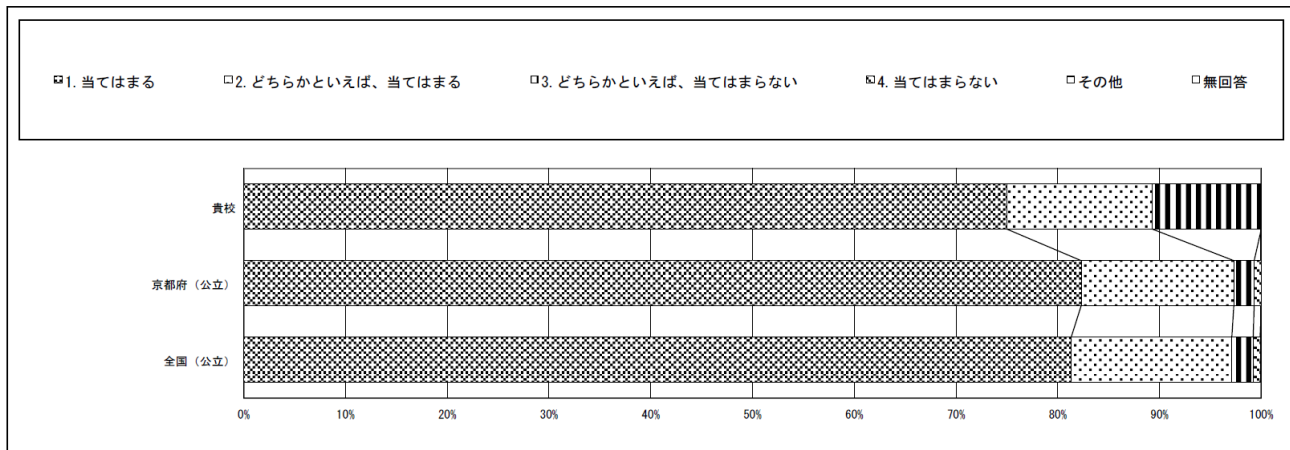
全国ならびに京都府、全国平均正答率を少し上回る結果でした。特に「数と計算」に関する問題は全国平均を上回る結果でした。示された資料から必要な情報を選び、数量の関係を式に表し計算することや、基本図形に分割することができる図形の面積の求め方を式や言葉を用いて記述する問題、小数の加法について、数の相対的な大きさを用いて共通する単位を捉えるなどの問題で正答率が高かったです。一方で、平行四辺形の性質を基に、コンパスを用いて平行四辺形を作図することに関する問題、はかりの目盛りを読む問題は京都府平均を下回っていました。

【理科】

全国ならびに京都府、全国平均正答率を少し上回る結果でした。特に身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があること、電気の回路の作り方について実験の方法を発想し、表現するなどの問題で正答率が高かったです。一方で、電磁石の強さは、巻き数によって変わることを短答式で答える問題で全国平均正答率を少し下回っていました。

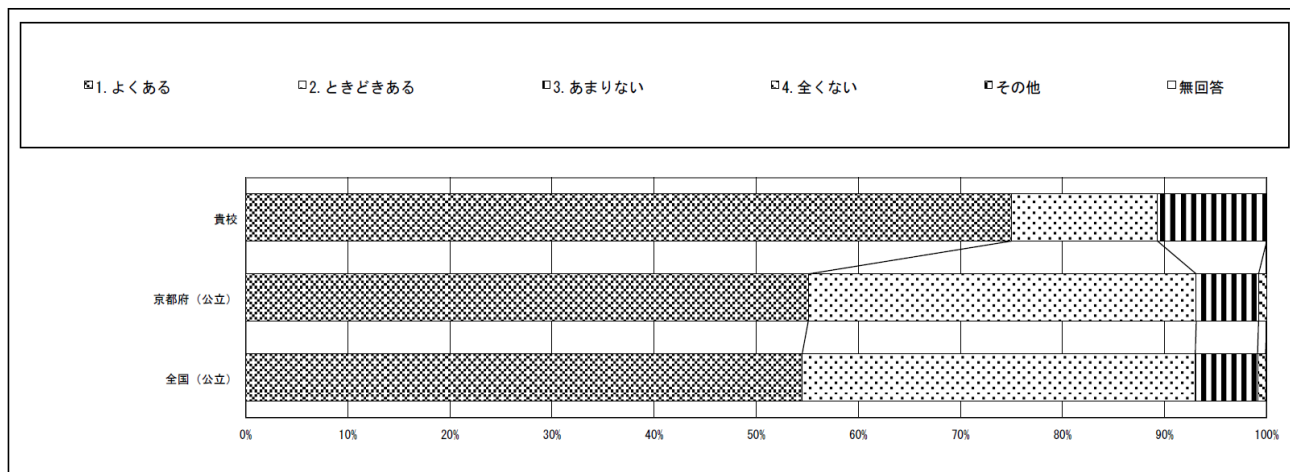
【児童質問紙より】

① いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。



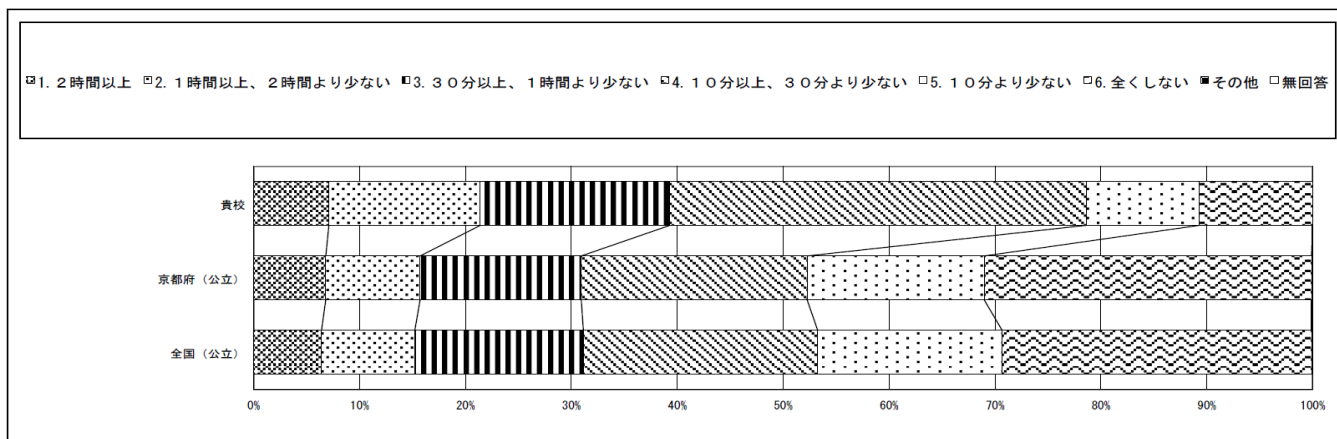
京都府・全国と比べて、「当てはまる」を選択した児童が少なかったです。また、「どちらかといえば、当てはまらない」を選択した児童が多かったです。いじめはどんな理由があってもいけないことなので、再度、学校全体で徹底していきます。また、道徳や人権学習を通じて「自分も人も大切にすること」について考えていくようにしていきます。

②普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか。



京都府・全国と比べて「当てはまる」を選択した児童が多かったです。普段の6年生の学校生活を見ていると、休み時間に運動場で楽しそうにバレーボールやドッジボールをしている姿をよく見かけます。ご家庭でも、自分の好きなこと（趣味など）しているときや家族の方と過ごしているときに幸福感を感じていることと思われます。

③学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか。（電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）



京都府・全国と比べて「2時間以上」「1時間以上、2時間より少ない」「30分以上、1時間より少ない」を選択した児童が多かったです。学校でも朝読書の時間を含め、読書をしている様子を見かけますが、家庭でも、1日当たりに読書をしている時間が長い児童が多いことが分かります。読書をすることで、知識が増える、思考力が向上する、語彙が増える、想像力が豊かになるなど多くのメリットがあると考えられます。学校でも1学期に引き続き、2学期に読書週間の取組をしていきます。

今年度、主体的に取り組む力を育むことや、いろいろな人との対話を通して学ぶ力を大切にしています。今後も学校と家庭の連携で学習効果を高めていけるようにしていきたいと考えます。子どもたちの健やかな育ちと学びの実現にご協力をお願いします。